

Genie®

操作説明書
メンテナンス情報付属

First Edition
Fifth Printing
Part No. 38132JA

DPL™ Super Series™

重要

本機械を操作する前に、操作説明書の中の安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。トレーニングを受け認定された担当者のみ機械を操作することが許されています。本説明書は機械の一部とみなされ、常に機械と一緒に置かれていなければなりません。質問がございましたら Genie Industries までご連絡ください。

目次

ページ
安全規則 1
操作 7
説明 8
操作前の点検 9
メンテナンス 11
機能テスト 14
作業場の点検 17
操作手順 18
バッテリーと充電器の操作手順 20
輸送手順 21
ステッカー 22
仕様 24

連絡先：

インターネット：http://www.genieindustries.com
電子メール：techpub@genieind.com

Copyright © 1996 Genie Industries

初版：第 5 刷 2002 年 4 月

「Genie」および「DPL」は、米国およびその他の国における Genie Industries の登録商標です。「Super Series」は Genie Industries の商標です。

♻ 再生紙使用 L

Printed in U.S.A.

安全規則



危険

本説明書の操作指示および安全規則に従わない場合は、重傷または死に至ることがあります。

操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

次のセクションに進む前に、安全規則を理解し、心得てください。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

☑ 下記をよく読み、理解し、服従する：

- 製品使用説明書と安全規則－操作説明書と機械ステッカー
- 従業員の安全規則と作業場所の規制
- 適合する法規

☑ 本機械を使用するにあたって初めてセットアップを行うとき、ブリーザーキャップが取り付けられている。ブリーザーキャップの説明については、「操作前の点検」のセクションを参照してください。

安全規則

転倒の危険



ベースが水平であり、4 つのアウトリガーすべてが適切に据え付けられ、ジャッキがしっかりと地面に固定されている場合以外は、作業台を上げないでください。

作業台が上がっている状態で機械を移動しないでください。

作業台を使用してるとき、あるいは作業台が上昇しているときは、アウトリガーを調節したり取り外したりしないでください。

機械から荷物をぶら下げたり、取り付けたりしないでください。



機械が水平な状態にある場合以外は作業台を上げないでください。ジャッキのみを使って機械を水平な状態にできない表面上では、機械をセットアップしないでください。輪止め、ブロック、あるいは詰め木などを使用して、機械を水平にしないでください。

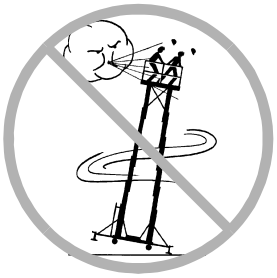
作業台にはしごや足場を組まないでください。また本機械のどの部分にも立てかけないでください。

作業台の外の物体を押したり、引っ張ったりしないでください。

機材や装備を上げる目的で機械を使用しないでください。本機械は作業員や工具を高所作業場まで上げる目的でのみ使用してください。

移動中または移動する可能性のある表面、もしくは車両上で機械を使用しないでください。

強風や突風の中で機械を操作しないでください。作業台の表面や積載床面を増大させしないでください。風にあたる面積が増えるにつれて機械の安定性が減少します。





定格作業台最大積載荷重量を超えないでください。

最大積載重量 - DPL-25S	
ANSI	340 kg
CSA	272 kg
最大作業員数 - ANSI および CSA	2
CE	340 kg
最大作業員数 - CE 野外使用 屋内使用のみ	 1 2
最大積載重量 - DPL-30S	
ANSI	340 kg
CSA	272 kg
最大作業員数 - ANSI および CSA	2
CE	340 kg
最大作業員数 - CE 野外使用 屋内使用のみ	 1 2

最大積載重量 - DPL-35S	
ANSI	272 kg
CSA	227 kg
最大作業員数 - ANSI および CSA	2
CE	272 kg
最大作業員数 - CE 野外使用 屋内使用のみ	 1 2

急に低くなっているところ、くぼみ、でこぼこした道、障害物がある場所、不安定な地面、滑りやすい表面、あるいは他の危険な状態の近辺では機械を操作しないでください。

機械の部品を改造したり、使用不能にしたりしないでください。機械の安全性と安定性に影響します。

機械の安定性に重大にかかわる部品を、重量や仕様の異なるものと取り替えないでください。Genie 承認の交換部品を使用してください。

フォークリフトや他の輸送車両を使って機械を移動するときは、作業台を完全に降ろし、手摺りを下げて、機械の電源を切り、作業員が作業台を降りてから行ってください。

落下の危険



作業台の手摺りに座ったり、立ったり、上ったりしないでください。作業台の上では常にしっかりとした足場を確保してください。

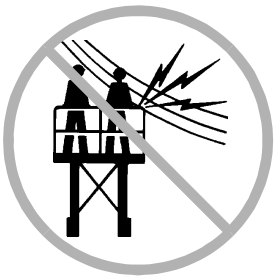
作業台側面手摺りを垂直にロックし、作業台端部手摺りと出入口ゲートを閉めてラッチで留めた状態以外は、作業台に乗ったり、作業台を上げたりしないでください。

作業台が上がっている状態で作業台から降りないでください。電源障害が起きた場合は、地上の作業員により手動降下バルブを作動させてください。

作業台の床面は、常にきれいにしておいてください。

安全規則

感電の危険



この機械の電気は絶縁されておらず、電流に接触した場合、あるいは接近する作業員の保護にはなりません。

機械が通電している電線に接触している場合、機械に近づかないでください。地上もしくは作業台の従業員は、送電線の電気を止めるまで絶対に機械に触れたり操作しないでください。

適合する法規および次の表に従って、電線や機械から安全な距離を保持してください。

電圧	安全上の最短距離
範囲	メートル
0～300V	接触を避ける
300V～50KV	3.05
50KV～200KV	4.60
200KV～350KV	6.10
350KV～500KV	7.62
500KV～750KV	10.67
750KV～1000KV	13.72

作業台の動きや電線の揺れやたるみを考慮に入れ、強風および突風に注意してください。

溶接するときに機械にアースを接地しないでください。

AC 電源使用の機械や DC バッテリー充電器は、接地した AC 回路に接続したアース付 3 ピン延長コードを使用しない限り操作しないでください。アース付 3 ピンプラグを改造したり、使用不能にしないでください。

衝突の危険

作業場において、頭上に障害物もしくは他に危険なものがないことをチェックしてください。

作業台側面手摺りにつかまっているときは、手にケガをしないよう注意してください。

作業台の下に人がいないこと、および障害物になるものがないことを確かめてから作業台を下げてください。

傾斜面で輸送する場合は注意してください。

下降している作業台には近づかないでください。

部品の損傷の危険

ブリーザーキャップを作動油容器に取り付けていない場合は、機械を操作しないでください。ブリーザーキャップの説明については、「操作前の点検」のセクションを参照してください。

溶接するときに機械にアースを接地しないでください。

DC モデル：残量が少ない、あるいは過度に放電されているバッテリーを使って機械を操作しないでください。

誤った使用による危険

関係者以外による使用をさけるため、機械から離れる際は、キーを取り外してください。

機械の故障の危険

損傷もしくは故障している機械は使用しないでください。

シフトの前に、機械の操作前の点検を完全に行い、すべての機能をテストしてください。損傷もしくは故障している機械は、直ちに故障の貼り紙を付けて作業を中止してください。

本説明書と *Genie DPL サービスマニュアル*に記載されているすべてのメンテナンスを必ず行ってください。

すべてのステッカーが適切な位置にあり、文字が読める状態であることを確認してください。

オペレータの安全と責任に関するマニュアルが完備され、読める状態で、作業台の上のマニュアル保管場所に置かれているようにしてください。

人体への傷害の危険

作動油や空気が漏れている状態で機械を操作しないでください。空気や作動油が漏れると、皮膚に飛び散ったり、やけどを負う原因となります。

ステッカーの説明

Genie 製品ステッカーは、識別しやすいよう、下記のようなシンボル、色別コード、および警報言語を使用しています。



安全警報シンボル－作業員にケガの危険があることを知らせます。ケガや死亡の危険を避けるために、このシンボルのあとに示されている全ての安全警告に従ってください。

⚠ 危険 赤－差し迫った危険があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至ることがあります。

⚠ 警告 オレンジ－危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至ることがあります。

⚠ 要注意 安全上の警告シンボルを伴った黄色－危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は小さなケガから中程度のケガを負うことがあります。

要注意 安全上の警告シンボルがない黄色－危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は機械が故障することがあります。

注意 緑－操作情報またはメンテナンス情報を示します。

安全規則

バッテリーと充電器の安全 - DCモデル

熱傷の危険

バッテリーには酸が入っています。バッテリーに作業を行うときは、常に保護服と保護メガネを着用してください。





バッテリーの酸をこぼしたり酸に触れないようにしてください。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

爆発の危険



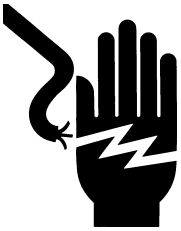
バッテリーは爆発性ガスを放出します。火花、炎、火のついたタバコなどをバッテリーに近づけないでください。

換気の良い場所でバッテリーを充電してください。

充電器がオンのときは、バッテリーから充電器 DC 出力配線を取り外さないでください。

ベースカバーのスライド式ドアは、充電中ずっと開けておいてください。

感電の危険



充電器は、必ず接地されている AC 回路に接続してください。

充電中はバッテリーまたは充電器を水や雨にさらさないでください。

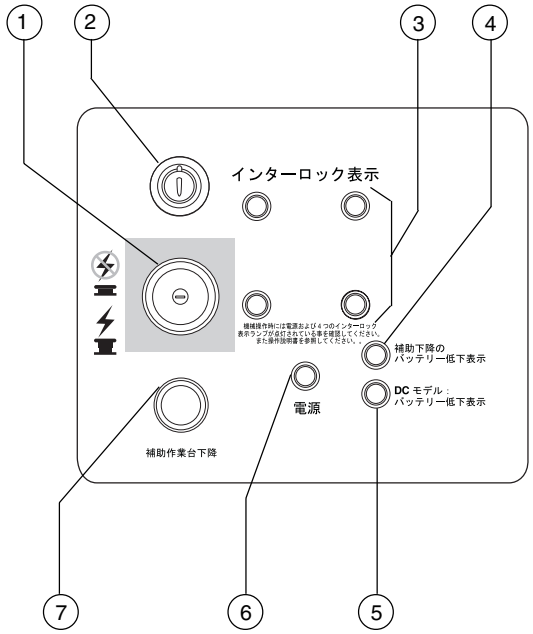
使用する前に破損している箇所がないか点検してください。破損している部品は操作する前に取り替えてください。

リフトの危険

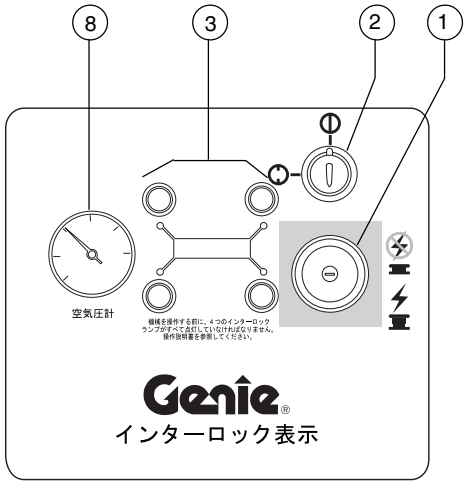
バッテリーの重量は 48 kg です。バッテリーを持ち上げるときは、適切な人数と手段により行ってください。

操作

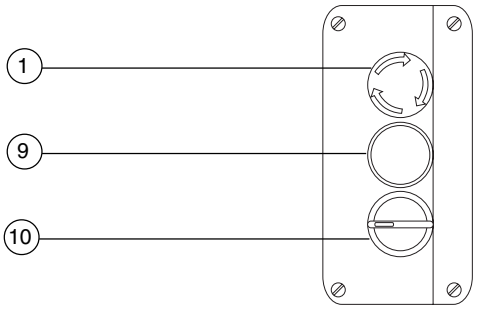
地上操作
- AC モデルと DC モデル



地上操作
- エア式モデル

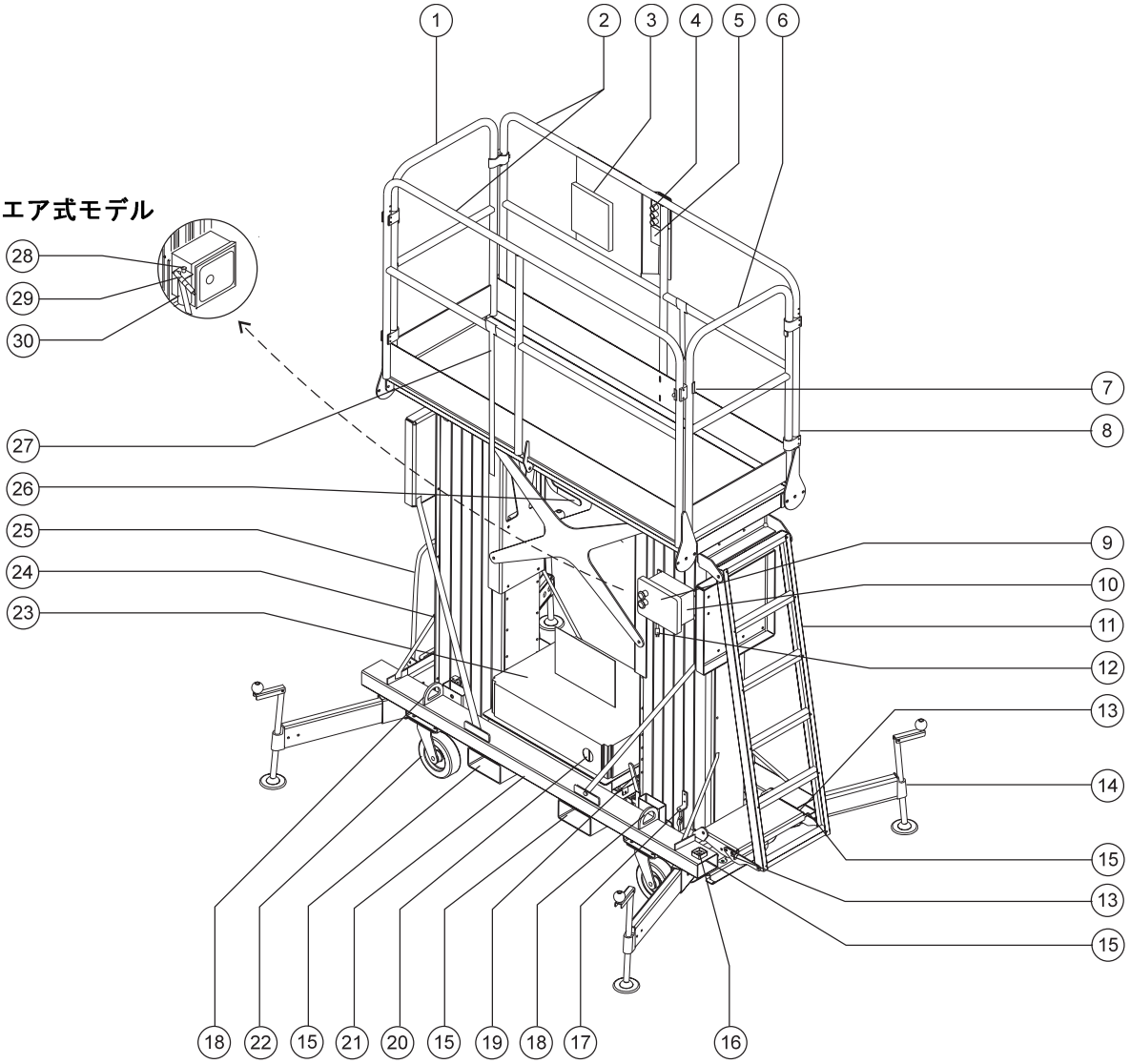


作業台操作



1 赤色非常停止ボタン
2 キースイッチ
3 アウトリガーインターロックランプ（4）
4 補助下降用バッテリー低下表示ランプ
5 DC モデル : バッテリー低下表示ランプ
6 電源ランプ
7 補助作業台下降ボタン
8 空気圧計
9 制御作動ボタン
10 上下スイッチ

説明



1 作業台端部手摺り
2 作業台側面手摺り
3 説明書保管コンテナ
4 作業台操作
5 AC コンセント
6 作業台出入口ゲート
7 作業台端部ゲートラッチ
8 作業台
9 インターロックランプ
10 AC モデル：回路ブレーカー
11 作業台出入口用はしご
12 AC モデル：機械への電源
DC モデル：作業台への AC 電力
13 作業台出入り口用はしご ロックピン
14 アウトリガーとジャッキ
15 フォークリフトポケット
16 水準器
17 シーケンスケーブル
18 搬送用荷締
19 手動下降レバー
20 充電器プラグ
21 ベース
22 旋回ロック付きキャスター
23 ベースカバー
24 マスト
25 ステアリングハンドル
26 作業台手摺りロックハンドル
27 手摺りリフトアーム
28 空気管潤滑装置調節ノブ
29 機械への空気の供給
30 空気管潤滑装置

操作前の点検

操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

次のセクションに進む前に、操作前の点検についてよく理解してください。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

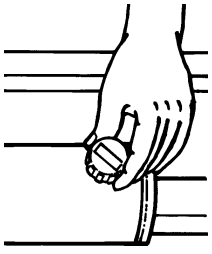
4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

ブリーザーキャップ - AC モデルと DC モデル

ブリーザーキャップを取り付けないで機械を操作すると、部品が故障します。

本機械を使用するにあたって初めてセットアップを行うとき、バッテリーカバー下の作動油容器のパイププラグを取り除き、代わりにブリーザーキャップを取り付けます。



ブリーザーキャップは封筒に入って供給され、マストにテープで貼り付けてあります。

原則

操作前の点検と規定メンテナンスはオペレータが責任をもって行ってください。

操作前の点検とは、シフトの前にオペレータが目で見て行う点検です。この点検は、オペレータが機能テストを行う前に、目で点検して異常な箇所を見つけることを目的としています。

さらに操作前の点検によって、メンテナンスが必要かどうかを決めます。この説明書に記載してあるメンテナンス項目のみオペレータによって行えます。

次ページのリストで、部品が変更されていないか、損傷部品や緩んでいたり欠けている部品がないかをチェックしてください。

故障もしくは改造した機械は決して使用しないでください。もし工場出荷時の状態から損傷もしくは何らかの異変が発見されたら、機械に故障中の貼り紙をつけて使用を停止してください。

機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づき行ってください。修理が終了したら、オペレータは機能テストに移る前に再度操作前の点検を行ってください。

定期保守点検は、認定を受けたサービス担当者が製品仕様と責務マニュアルに記載されている要項に基づいて行ってください。

操作前の点検

操作前の点検

- ❏ オペレータの安全と責任に関するマニュアルが完備され、文字が読める状態で、作業台の保管場所に保管されていることを確認します。
- ❏ すべてのステッカーは、文字が読める状態で所定の位置あるか確認します。「ステッカー」のセクションを参照してください。
- ❏ バッテリー液の漏れがないか、量が適当かどうかをチェックします。必要に応じて蒸留水を足してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。
- ❏ AC モデルと DC モデル：作動油の漏れがないか、量が適当かどうかをチェックします。必要に応じてオイルを足してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。
- ❏ エア式モデル：空気管潤滑装置のオイル量をチェックします。必要に応じてオイルを足してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。
- ❏ エア式モデル：オイル潤滑装置のキャニスタードリップレートを点検します。必要に応じて調節してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。
- ❏ エア式モデル：空気フィルター/レギュレータキャニスターを点検します。必要に応じて排水してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。

以下の部品もしくは部分が損傷してしていたり変更されていないか、また、きちんと設置されていなかったり、なくなっている部品がないかどうかをチェックします。

- ❏ 電気部品および配線
- ❏ コイルコード（搭載する場合）
- ❏ AC モデルと DC モデル：油圧ユニット、ホース、フィティング、およびシリンダー
- ❏ エア式モデル：空気動力ユニット、空気管、ホース、フィティング、およびシリンダー
- ❏ 手動下降レバー
- ❏ 作業台端部手摺り、作業台側面手摺り、および作業台出入口ゲート
- ❏ 手摺りロックハンドル
- ❏ シーケンスケーブルと滑車
- ❏ リフトチェーンとアイドラー
- ❏ ナット、ボルトおよびその他の締め具
- ❏ マストおよびマスト締め金
- ❏ ブリーザーキャップ
- ❏ アウトリガー、ジャッキ、フットパッド
- ❏ 手摺りリフトアーム
- ❏ 作業台出入口用はしご

機械全体をとおして下記をチェックします：

- ❏ へこみや損傷
- ❏ 腐食や酸化
- ❏ 溶接や機械部品の割れ

- ❏ バッテリー端子とすべてのバッテリーの配線を点検し、きれいにします。
- ❏ 機械を構成するどの部品も欠けておらず、適切なファスナーやピンが正しい位置にしっかりと締められた状態になっていることを確認します。

メンテナンス



必ず従うこと：

☑ この説明書に記載してあるメンテナンス項目のみオペレータによって行なうことができます。

☑ 定期保守点検は、認定されているサービス担当者が製品仕様と責務マニュアルに記載している要項に基づいて行ってください。

メンテナンス記号の説明

注意 次のシンボルは、指示の目的をわかりやすくするために本マニュアルで使用されています。メンテナンス手順のはじめにあるシンボルは、次を意味しています。

この手順を行うために、工具が必要です。

この手順を行うために、新たな部品が必要です。

バッテリーのチェック - DC モデル

機械の性能を保ち安全に操作するには、バッテリーが適切な状態であることが重要です。液量が適切でなかったり、ケーブルまたは接続が損傷していると、エンジン部品の故障につながり危険な状態を招くおそれがあります。

⚠ 警告 感電の危険。熱くなっている回路やライブ回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計、その他の貴金属を全て外してください。

⚠ 警告 人体への障害の危険。バッテリーには酸が入っています。バッテリーの酸をこぼしたり酸に触れないようにしてください。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

注意 このテストはバッテリーを完全に充電してから行ってください。

1 保護服と保護用メガネを着用してください。

2 バッテリー通気孔のキャップをとります。

3 バッテリーの酸の量をチェックします。必要に応じてバッテリーチューブの底に蒸留水を補給します。このときに溢れないようにしてください。

4 バッテリー通気孔のキャップをつけます。

メンテナンス

作動油量の点検 - AC モデルと DC モデル

作動油量を適切なレベルにしておくことは機械操作にとって非常に重要です。作動油量が適切でないと油圧部品に損傷を与えることがあります。点検担当者は作動油量を毎日チェックすることにより、作動油量に変化がある場合には油圧システムでの問題を早期に見つけることができます。

1 作業台が完全に下がっていることを確認します。

2 作動油容器側面の表示計をチェックします。

⊙ 結果：作動油量は、表示計の中間になっているはずです。このときに溢れないようにしてください。

作動油の仕様	
作動油タイプ	Dexron に相当

空気管潤滑装置オイル量のチェック - エア式モデル

潤滑装置キャニスターのオイル量を適切なレベルにしておくことは、機械の安全操作と性能を維持するために重要です。潤滑装置キャニスターのオイル量が適切でないと、危険な操作状態を招いたり、部品が故障することがあります。

1 作業台が完全に下がっていることを確認します。

2 潤滑装置キャニスターのオイル量が適切であるかを点検します。

⊙ 結果：オイル量は、潤滑装置キャニスターの上から 12.7 mm でなければなりません。

3 オイルを足すには、潤滑装置ベースからオイル潤滑装置キャニスターを取り外します。オイルを足したら、潤滑装置ベースにキャニスターを取り付け直します。

オイルの仕様	
オイルタイプ	10W 自動車用エンジンオイル

オイル潤滑装置キャニスターのドリップレートのチェック - エア式モデル



潤滑装置キャニスターのオイルドリップレートを適切にしておくことは、機械の安全操作と機械の性能を維持するために非常に重要です。ドリップレートが適切でないと、部品が故障することがあります。

1 作業台を上げている際、潤滑装置の表示計を目視点検します。

⊙ 結果：表示計には、最高で1〜2滴のオイルが見えなければなりません。

2 ドロップレートを変更する場合、流出量を減らすにはオイルフロー コントロールバルブを時計回りに、流出量を増やすには反時計回りに回します。

3 適切なドリップレートになるまでこの手順を繰り返します。

空気フィルター/レギュレータキャニスターの点検 - エア式モデル



エアモーターを高性能に保ち、耐用年数を維持するために、空気フィルター/レギュレータキャニスターの排水はきわめて重要です。キャニスターに水が溜まっている場合、エアモーターが十分な性能を発揮できません。また、続けて使用した場合は部品が故障することがあります。

1 空気フィルター/レギュレータキャニスターに水が溜まっていないか確認します。

2 水が溜まっている場合は、キャニスターの底の排水プラグを緩めて排水します。

3 排水プラグをしっかりと締めます。

定期保守点検

四半期ごと、1 年ごと、2 年ごとに行われる保守点検は、本装置のメンテナンストレーニングを受け認定されている担当者が本装置のサービスマニュアルの手順に従って行わなければなりません。

3 ヶ月以上使用されていない機械は、再び使用する前に必ず四半期点検を行ってください。

機能テスト



操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

次のセクションに進む前に、機能テストについてよく理解しておく。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

機能テストは、機械を使用する前に故障を見つけることを目的としています。オペレータは、指示された手順に従って、全ての機能をテストしてください。

故障している機械は決して使用しないでください。故障が見つかった場合は、故障の貼り紙を付けて作業を中止してください。機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づき行ってください。

修理が終了したら、オペレータは機械を使用する前に、再び操作前の点検、続いて機能テストを行ってください。

機能テスト

1 作業場の真下に機械を置きます。

2 適切な電源に接続します。
DC モデル：バッテリーパックを接続します。
AC モデル：接地されている 15A の AC 供給電力に接続します。13 m 以下の 12 ゲージ/3.3 mm^2 アース付 3 ピン延長コードを使用してください。
エア式モデル：空気管をつなぎます。

3 キーを挿入してオンの位置に回すか、作業台操作に切り替えます。

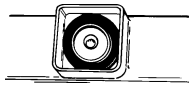
4 地上操作で赤い非常停止ボタンを引きます。

⊙ 結果：AC モデルと DC モデル：電源ライトをオンにします。
エア式モデル：空気圧力計が 5.5〜7.8 バールを示します。

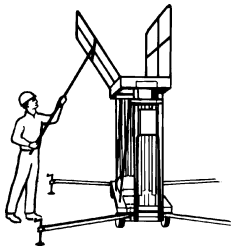
5 アウトリガーを取り付け、機械の本体が水平になるようジャッキを調節します。機械を水平にするには、アウトリガーだけを使用してください。輪止め、ブロック、あるいは詰め木を使用して、機械を水平にしないでください。

6 インターロック表示をチェックします。4 つのインターロックランプがすべて点灯していることを確認します。

7 水準器を使って、機械の本体が水平になるようジャッキを調節します。



8 作業台手摺りロックハンドルを回し、作業台側面手摺りが垂直になるまで回します。側面手摺りロックが所定の位置にあることを確認します。もう一方の側でもこの手順を繰り返します。



9 はしごロックピンを引き、はしごを回して下ろします。はしごロックが所定の位置にあることを確認します。

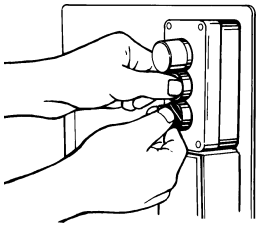
10 はしごを上り、作業台に入ります。作業台出入口ゲートおよび作業台端部手摺りを閉めてラッチで留めます。

非常停止のテスト

11 作業台操作で赤い非常停止ボタンを回して解除します。

12 地上操作で赤い非常停止ボタンを押して、オフの位置にします。

13 制御作動ボタンを押して、上下スイッチを任意の走行方向に回します。



⊙ 結果：上昇/下降機能は作動しません。

14 作業台操作で赤い非常停止ボタンを押して、オフの位置にします。

15 地上操作で赤い非常停止ボタンを引いて、オンの位置にします。

16 制御作動ボタンを押して、上下スイッチを任意の走行方向に回します。

⊙ 結果：上昇/下降機能は作動しません。

機能テスト

アウトリガーインターロックのテスト

17 作業台操作で赤い非常停止ボタンを回して解除します。

⊙ 結果：上昇/下降機能が作動します。

18 対応するインターロックランプが消えるまで、ひとつのジャッキを緩めます。

⊙ 結果：上昇/下降機能は作動しません。

19 ジャッキを元に戻し、水準器をチェックします。

20 各アウトリガーにおいてこの手順を繰返します。

補助作業台下降のテスト
- AC モデルと DC モデル

21 作業台を少し上昇させます。

22 電源装置を機械から外します。

23 キースイッチを回して地上操作に切り替えます（搭載する場合）。

24 地上操作で補助作業台下降ボタンを押します。

⊙ 結果：作業台が下降します。

25 電源装置を機械に接続します。

26 キースイッチを回して作業台操作に切り替えます（搭載する場合）。

27 作業台を少し上昇させます。

28 電源装置を機械から外します。

29 制御作動ボタンを押して、上下スイッチを下の方向に回します。

⊙ 結果：作業台が下降します。

30 電源を機械に接続します。

手動降下のテスト

31 作業台を少し上昇させます。

32 手動下降レバーを作動させます。

⊙ 結果：作業台が下降します。

作業場の点検



操作を行う必須条件 :

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

次のセクションに進む前に、作業場の点検についてよく理解しておく。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

作業場を点検することによって、オペレータは作業場が安全に機械を操作するのに適しているかどうかを判断することができます。作業場の点検は、作業場に機械を移動する前に行わなければなりません。

オペレータは作業場で起こりうる危険を心得たうえ、機械の移動、セットアップ、運転時に注意を払い、危険をさけてください。

作業場の点検

次の危険な状態に注意し、避けてください :

- 急に低くなっているところ、くぼみ
- でこぼこした道、床の障害物もしくは破片
- 頭上の障害物、高圧送電線
- 危険な場所
- 機械の重量に耐えられない地面の状態
- 風や天候の状態
- 関係作業員以外の存在
- その他に起こる可能性のある危険な状態

操作手順

操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

人や機材を高所作業場まで上げる目的以外で機械を使用することは危険です。

2 人以上のオペレータが同じ勤務時間内で異なる時間帯に機械を使用する場合、すべてのオペレータが資格を有し、安全規則やオペレータの安全および責務マニュアルの手順に従がわなければなりません。すなわち、オペレータが交替するたびに、次のオペレータが機械の操作前に、操作前点検、機能テスト、作業場点検を行ってください。

セットアップ

1 作業場の真下に機械を置きます。

2 適切な電源に接続します。
DC モデル：バッテリーパックを接続します。
AC モデル：接地されている 15A の AC 供給電力に接続します。
13 m 以下の 12 ゲージ/3.3 mm^2 アース付 3 ピン延長コードを使用してください。
エア式モデル：空気配管を接続します。

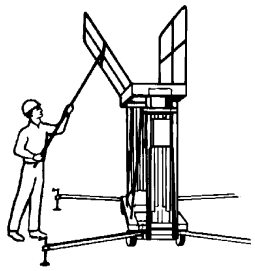
3 キーを挿入して、オンの位置に回すか、作業台操作に切り替えます。

4 地上操作で赤い非常停止ボタンを引きます。電源ランプが点灯しているか、空気圧計が 5.5〜7.8 バールを示していることを確認します。

5 アウトリガーを取り付け、機械の本体が水平になるようジャッキを調節します。水準器を使って機械が水平であるかチェックします。

6 インターロック表示をチェックします。4 つのインターロックランプがすべて点灯していることを確認します。

7 作業台手摺りロックハンドルを引き下げ、作業台側面手摺りが垂直になるまで回します。側面手摺りロックが所定の位置にあることを確認します。もう一方の側でもこの手順を繰り返します。



8 はしごロックピンを引き、はしごを回して下ろします。はしごロックが所定の位置にあることを確認します。

9 はしごを上り、作業台に入ります。作業台出入口ゲートおよび作業台端部手摺りを閉めてラッチで留めます。

非常停止

1 作業台操作あるいは地上操作で赤い非常停止ボタンを押し、上昇機能を停止します。

作業台の上昇と下降

1 赤い非常停止ボタンを回して解除します。

2 制御作動ボタンを押して、上下スイッチを任意の走行方向に回します。

手動下降

1 手動下降レバーを作動させます。

補助作業台下降 - AC モデルと DC モデル

1 キースイッチを回して、オンにするか、地上操作に切り替えます。赤い非常停止ボタンを引いて、オンにします。

2 地上操作で補助作業台下降ボタンを作動します。

使用後の注意

1 固い水平な地面で、障害物や人や車の往来のない、安全な格納場所を選んでください。

2 関係者以外による使用をさけるためキーを取り外してください。

3 DC モデル：バッテリーを充電してください。

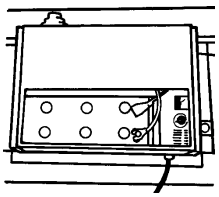
操作手順

バッテリーと充電器の操作手順

必ず従うこと：

- ☑ 外部充電池またはブースターバッテリーを使用しないでください。
- ☑ 換気の良い場所でバッテリーを充電してください。
- ☑ 充電器に表示されている適切な AC 入力電圧を使用してください。
- ☑ Genie 承認のバッテリーと充電器を使用してください。

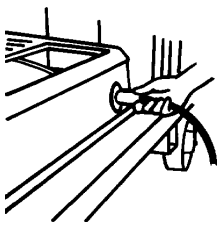
バッテリーの充電：



1 充電器とバッテリーに手が届くように、バッテリーカバーをスライドさせて開きます。カバーは充電中ずっと開けておきます。

2 バッテリー通気孔のキャップをとり、バッテリー液の量をチェックします。必要に応じてプレートがかくれる程度に蒸留水を入れます。充電の前には入れすぎないでください。

3 バッテリー通気孔のキャップをつけます。



4 充電器を接続するコンセントが接地されており、充電器に示されている適切な電圧およびアンペア数であることを確認します。

5 使用量に基づいてタイマーを設定します。

使用量が少ない場合（リフトサイクル 15 回未満）：7 時間に設定。

使用量が多い場合（リフトサイクル 15 回以上）：ON（オン）の位置に設定。

6 充電器は、設定時間になると自動的に切れます。

注記：電流計が、開始から 15 分以内に 3A 以下に下がったら、バッテリーは完全に充電されています。

7 充電が終了したらバッテリー液の量をチェックします。必要に応じてバッテリーチューブの底に蒸留水を補給します。

乾式バッテリーの液注入と充電の手順

1 バッテリー通気孔のキャップをとり、バッテリー通気孔開口部のプラスチックシールを取り除きます。

2 それぞれのセルにプレートがかくれるのに十分な程度のバッテリー液（電解液）を入れます。

バッテリー充電のサイクルが終了するまでは、いっぱいに入れないでください。入れすぎると、充電中にバッテリー液が溢れることがあります。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

3 バッテリー通気孔のキャップをつけます。

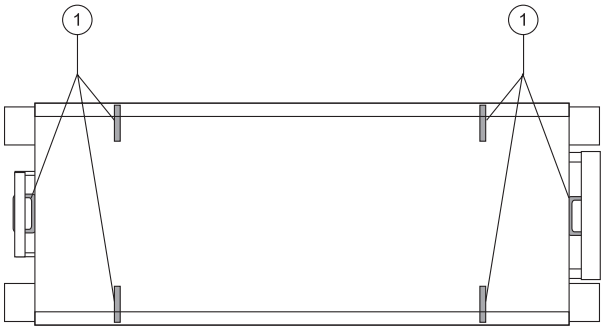
4 7 時間、または電流計が 3A 以下になるまで充電します。

5 充電が終了したらバッテリー液の量をチェックします。必要に応じてバッテリーチューブの底に蒸留水を補給します。

輸送手順

必ず従うこと：

- ☑ クレーンやフォークリフトで機械を持ち上げるときは、常識的な判断と計画をもって機械の動きを制御してください。
- ☑ 運搬車は平坦な地面に駐車してください。
- ☑ 機械を載せるときは、輸送車両が動かないよう固定してください。
- ☑ 輸送車両の容量、積載装置、積載面が機械の重量を支えるのに十分なものでなければなりません。「仕様」のセクションを参照してください。
- ☑ 機械の重量に十分に耐えることができるチェーンまたはストラップを使用して、輸送車に機械を固定してください。



1 搬送用荷締箇所

フォークリフトによる機械の積載

1 作業台を下げます。

2 作業台側面手摺り、作業台端部手摺り、および作業台出入口ゲートを下げます。荷締ストラップで側面手摺りを固定します。

3 赤い非常停止ボタンを押し、キースイッチを回して、オフの位置にしてキーを取り外します。

4 緩んでいたり、固定されていない箇所がないか機械全体を点検します。

5 機械側面にあるフォークリフトポケットを使用します。

平台トラック上への機械のウィンチ

1 作業台を下げます。

2 作業台側面手摺り、作業台端部手摺り、および作業台出入口ゲートを下げます。荷締ストラップで側面手摺りを固定します。

3 赤い非常停止ボタンを押し、キースイッチを回して、オフの位置にしてキーを取り外します。

4 緩んでいたり、固定されていない箇所がないか機械全体を点検します。

5 ベースにあるウィンチ個所（荷締箇所）にケーブルを取り付けます。

6 慎重に機械をトラック上にウィンチします。

7 機械の本体とマストを輸送車両にしっかりと固定します。積載荷重量に十分耐えうるチェーンやストラップを使用してください。

ステッカー

ステッカーの点検

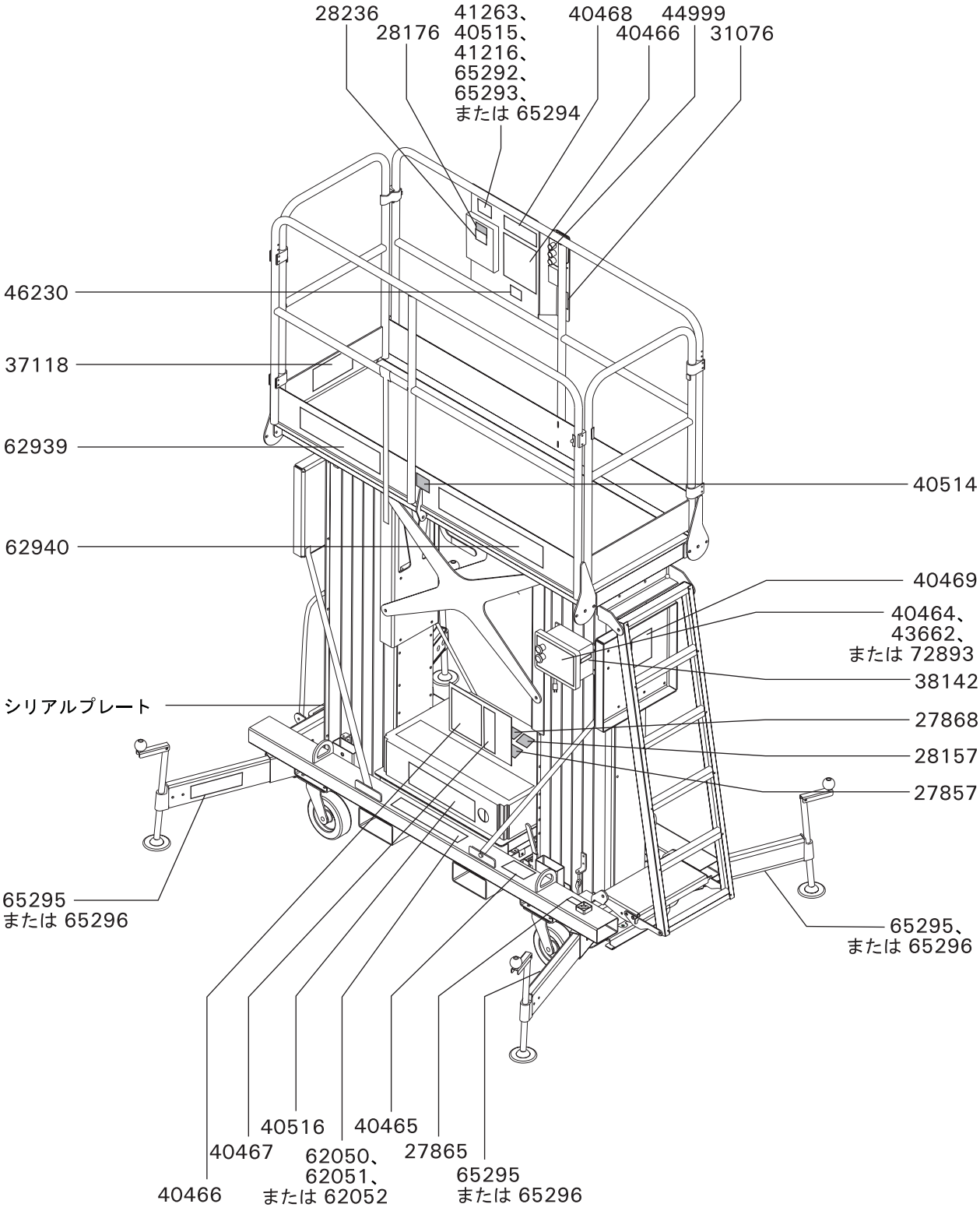
次ページの絵を見て、ステッカーの文字が読める状態で所定の位置に貼られていることを確認してください。

下記は、番号順に並べられたステッカーの数量と詳細です。

品番	名称	数量
27857JA	要注意 - 部品の損傷	1
27865JA	ラベル - 水準器	2
27868JA	危険 - 転倒の危険、リリーフ	1
28157JA	ラベル - Dexron	1
28176JA	注意 - 紛失した説明書	1
28236JA	警告 - 読み込み失敗	1
31076JA	注意 - 最大 8A	1
37118JA	警告 - 人体への傷害の危険	1
38142JA	ラベル - 回路ブレーカー	1
40464JA	インターロック表示 - AC モデルと DC モデル	1
40465JA	注意 - 手動下降レバー	1
40466JA	危険 - 一般安全	2
40467JA	注意 - 操作手順、地上	1
40468JA	注意 - 操作手順、作業台	1
40469JA	危険 - 転倒の危険	1
40514JA	警告 - 手摺りロックハンドル	2
40515JA	注意 - 最大積載量 272 kg ANSI、CSA	1
40516JA	危険/注意 - バッテリーと充電器の安全指示	1

品番	名称	数量
41216JA	注意 - 最大積載量 340 kg ANSI、CSA	1
41263JA	注意 - 最大積載量 227 kg ANSI、CSA	1
43662	インターロック表示 - エアモーターモデル	1
44999JA	ラベル - 制御作動	1
46230JA	注意 - 外圧	1
62050	外装 - DPL-25S	2
62051	外装 - DPL-30S	2
62052	外装 - DPL-35S	2
62939	外装 - Genie ロゴ	2
62940	外装 - DPL Super Series ロゴ	2
65292JA	注意 - 最大積載量 227 kg、CE	1
65293JA	注意 - 最大積載量 272 kg、CE	1
65294JA	注意 - 最大積載量 340 kg、CE	1
65295JA	注意 - 51 cm アウトリガー、CE	4
65296JA	注意 - 66 cm アウトリガー、CE	4
72893JA	インターロック表示 - AC モデルと DC モデル	1

ステッカー


28236
28176
41263、
40515、
41216、
65292、
65293、
または 65294
40468
40466
44999
31076
46230
37118
62939
40514
62940
40469
40464、
43662、
または 72893
38142
シリアルプレート
27868
28157
27857
65295
または 65296
65295、
または 65296
40516
40465
40467
62050、
62051、
または 62052
27865
40466
65295
または 65296

仕様

モデル	DPL-25S	DPL-30S	DPL-35S
高さ 操作時最大	9.5 m	11 m	12.4 m
高さ 作業台最大	7.7 m	9.1 m	10.6 m
高さ、 手摺り収納時	1.98 m	1.98 m	1.98 m
奥行き アウトリガー収納時	2.07 m	2.07 m	2.07 m
幅 アウトリガー収納時	80 cm	80 cm	80 cm
アウトリガー接地面積 (奥 x 幅)	2.1 x 1.5 m	2.3 x 1.9 m	2.3 x 1.9 m
作業台寸法 (奥 x 幅)	1.83 m x 69.9 cm	1.83 m x 69.9 cm	1.83 m x 69.9 cm
電源 AC DC 空気動力	 220V または 115V 12V 6.9 バール @ 2.26 m^3/分	 220V または 115V 12V 6.9 バール @ 2.26 m^3/分	 220V または 115V 12V 6.9 バール @ 2.26 m^3/分
積込重量 **(AC / DC)**	624 / 658 kg	669 / 703 kg	714 / 748 kg
最大積載荷重			
ANSI	340 kg	340 kg	272 kg
CE	340 kg	340 kg	272 kg
CSA	272 kg	272 kg	227 kg

周囲操作温度	-29°C～57°C
騒音 標準的な作業場での最大音量 （騒音レベル）	80 dB

Genie では製品の改良を重ねていくことを方針としています。製品の仕様は予告なく変更することがあります。

代理店：

Genie North America
電話 425.881.1800
フリー USA and Canada
ダイヤル 800.536.1800
ファックス 425.883.3475

Genie Holland
電話 +31 70 51 78836
ファックス +31 70 51 13993

Genie Scandinavia
電話 +46 31 3409612
ファックス +46 31 3409613

Genie France
電話 +33 (0)2 37 26 09 99
ファックス +33 (0)2 37 26 09 98

Genie Iberia
電話 +34 93 579 5042
ファックス +34 93 579 5059

Genie Germany
電話 +49 (0)4202 88520
ファックス +49 (0)4202 8852-20

Genie U.K.
電話 +44 (0)1476 584333
ファックス +44 (0)1476 584334

Genie Mexico City
電話 +52 55 5666 5242
ファックス +52 55 5666 3241

Genie Australia Pty Ltd.
電話 +61 7 3375 1660
ファックス +61 7 3375 1002

Genie China
電話 +86 21 53852570
ファックス +86 21 53852569

Genie Malaysia
電話 +60 4 228 1235
ファックス +60 4 226 6872

Genie Japan
電話 +81 3 3453 6082
ファックス +81 3 3453 6083

Genie Korea
電話 +82 2 558 7267
ファックス +82 2 558 3910

Genie Africa
電話 +27 11 455 0373
ファックス +27 11 455 0355

Genie Latin America
電話 +55 11 4055 2499
ファックス +55 11 4043 1661